

令和 2 年度
武田学園 事業報告書



学校法人 武田学園

令和2年度武田学園事業報告書

目 次

I. 法人の概要	1
1. 基本情報	1
2. 建学の精神	1
3. 学校法人の沿革	2
4. 設置する学校・学部・学科等	6
5. 学校・学部・学科等の学生数の状況	6
6. 収容定員充足率	6
7. 役員の概要	7
8. 評議員の概要	7
9. 教職員の概要	8
II. 事業の概要	9
1. 認証評価	9
2. 主な教育・研究の概要	9
(1) 広島文教大学	9
(2) 広島文教大学附属高等学校	14
(3) 広島文教大学附属幼稚園	20
III. 財務の概要	21
1. 決算の概要	21
2. 経営改革計画（2018年度～2020年度）の進捗状況 及び 第2次文教マスタープラン（2021年度～2025年度）への移行	29
3. その他	30
4. 監事の監査報告書	32

I. 法人の概要

1. 基本情報

(1)法人の名称

学校法人武田学園

(2)主たる事務所の住所、電話番号、FAX番号、ホームページアドレス

〒731-0295 広島市安佐北区可部東一丁目2番1号

TEL.082-814-3191 (代) FAX.082-815-6801

ホームページアドレス <https://www.h-bunkyo.ac.jp/>

2. 建学の精神

○建学の精神

第二次大戦後の混乱の時代にあつて故武田ミキは、日本の再建のためには「真実に徹した堅実なる女性」の育成こそが急務であると強く感じ、永年の女子教育の経験を生かし、不動の信念と強い決意をもって、昭和23年に本学園を創立しました。

日本女性の持つ伝統的な礼節・慈愛・勤勉という特性を高揚・伸長し、社会風潮に流されることなく、正しく 強く 明るく 生きぬく女性を育成すること、これが本学園の建学の精神です。

○学園訓

- 一、真理を究め正義に生き勤労を愛する人にならう。
- 一、責任感の強い逞しい実践力のある人にならう。
- 一、謙虚で優雅な人にならう。

○教育方針

学園は、教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、建学の精神及び「心を育て 人を育てる」という建学の理念に則り、現代社会を支える学問の基礎・基本となる教養と時代の変化・発展に対応できる専門的学問を教授研究し、深い知識と高い識見と豊かな人間性を養い、もって社会の要請に応え得る人間の育成を目的とします。

○教育目標

学園は、その理念・目的を踏まえつつ、それぞれの専門的な立場から「正しい判断力とたくましい実践力を身につけた」人材の養成を目指しています。

3. 学校法人の沿革

昭和23年 3月31日	広島県可部女子専門学校設立認可 設立者武田ミキ校長となる。
昭和23年 4月15日	広島県安佐郡亀山村四日市699番地（高宮中学校内）において同校開校
昭和27年 7月15日	私立学校法第31条の規定に基づき学校法人武田学園設立認可
昭和31年12月21日	広島県可部女子高等学校（全日制家政科）設置認可
昭和32年 4月 8日	広島県可部女子高等学校 開校、武田ミキ校長就任
昭和37年 1月20日	可部女子短期大学（被服科入学定員40人，収容走員80人）設置認可 武田ミキ学長となる。
昭和37年 3月31日	広島県可部女子専門学校廃校
昭和37年 4月 1日	広島県安佐郡可部町大字中島1810番地において可部女子短期大学開学
昭和39年 1月17日	可部女子短期大学に食物栄養科食物専攻，栄養専攻設置認可
昭和39年 2月24日	可部女子短期大学食物栄養科に，「中学校教諭二級普通免許状（家庭）」授与の資格を得させるための課程認定
昭和39年 3月31日	可部女子短期大学食物栄養科栄養専攻を栄養士養成施設として指定される。
昭和39年 4月 1日	可部女子短期大学食物栄養科開設
昭和40年 1月25日	可部女子短期大学に国文科，英文科設置認可
昭和40年 2月22日	可部女子短期大学国文科，英文科に，「中学校教諭二級普通免許状 国文科に国語，英文科に外国語（英語）」授与の資格を得させるための課程認定
昭和40年 4月 1日	可部女子短期大学国文科，英文科開設
昭和41年 1月25日	広島文教女子大学文学部（国文学科，英文学科）設置認可 武田ミキ学長となる。
昭和41年 4月 1日	広島文教女子大学文学部国文学科，英文学科に，「高等学校教諭二級普通免許状，中学校教諭一級普通免許状 国文学科に国語，英文学科に外国語（英語）」授与の資格を得させるための課程認定
昭和41年 4月 1日	広島県安佐郡可部町大字上原1238番地において広島文教女子大学開学
昭和41年 4月 1日	「可部女子短期大学」を「広島文教女子大学短期大学部」と校名変更
昭和42年12月28日	短期大学部食物栄養科「栄養専攻」を「食物栄養専攻」と専攻名変更
昭和44年 2月 8日	短期大学部食物栄養科食物専攻に，「中学校教諭二級普通免許状（保健）」授与の資格を得させるための課程認定
昭和45年 1月21日	短期大学部に幼児教育学科設置認可
昭和45年 1月24日	短期大学部幼児教育学科を「保母」養成施設として指定される。
昭和45年 2月13日	短期大学部幼児教育学科に，「幼稚園教諭二級普通免許状」授与の資格を得させるための課程認定
昭和45年 2月26日	短期大学部の「国文科」を「国文学科」に，「英文科」を「英文学科」に，「被服科」を「服飾学科」に，「食物栄養科」を「食物栄養学科」に，学科名変更認可
昭和45年 4月 1日	短期大学部幼児教育学科開設
昭和46年 4月 1日	安佐郡可部町大字上原に広島文教女子大学附属幼稚園 開園

昭和51年 3月29日	広島文教女子大学及び広島文教女子大学短期大学部の聴講生の課程に、教員免許状授与の資格を得させるための課程認定（適用時期 昭和51年4月1日）
昭和53年 4月 1日	短期大学部服飾学科を「2級衣料管理士」養成大学として認定される（社団法人日本衣料管理協会）。
昭和56年 1月16日	文学部に初等教育学科設置認可
昭和56年 2月10日	広島文教女子大学文学部初等教育学科に、「小学校教諭一級普通免許状」授与の資格を得させるための課程認定（適用時期 昭和56年4月1日）
昭和56年 4月 1日	文学部初等教育学科開設
昭和58年11月19日	武田学園創立35周年記念式典挙行
昭和60年 2月 9日	広島文教女子大学文学部国文学科に、「高等学校教諭二級普通免許状（書道）」授与の資格を得させるための課程認定（適用時期 昭和60年4月1日）
昭和60年 3月26日	大韓民国全州教育大学と広島文教女子大学間における研究及び教育の協力について協定を結ぶ
昭和61年 3月18日	広島文教女子大学大学院設置認可 文学研究科国語学国文学専攻（修士課程）
昭和61年 4月 1日	広島文教女子大学大学院文学研究科国語学国文学専攻開設
昭和62年 3月18日	大学院文学研究科教育学専攻（修士課程）増設認可
昭和62年 4月 1日	大学院文学研究科教育学専攻開設 広島文教女子大学大学院文学研究科国語学国文学専攻に、「高等学校教諭一級普通免許状（国語）」授与の資格を得させるための課程認定（適用時期 昭和62年4月1日）
昭和63年 4月 1日	広島文教女子大学文学部初等教育学科に、小学校教諭一級普通免許状授与の資格を得させるための聴講生の課程認定（適用時期 昭和63年4月1日）
昭和63年 5月24日	中華人民共和国大連外国語学院と広島文教女子大学間における研究及び教育の協力について協定を結ぶ。
平成元年 2月14日	文学部初等教育学科に、幼稚園教諭一級普通免許状授与の資格を得させるための課程認定（適用時期 平成元年4月1日）
平成元年 4月 1日	文学部に、社会教育主事課程設置
平成元年 4月 1日	文学部に、学芸員課程設置
平成元年 4月 1日	短期大学部「服飾学科」を「生活科学科」に名称を変更
平成 2年 2月20日	大学院文学研究科教育学専攻に、「小学校教諭専修免許状及び幼稚園教諭専修免許状」授与の資格を得させるための課程認定（適用時期 平成2年4月1日）
平成 2年 4月 1日	短期大学部食物栄養学科食物専攻学生募集停止
平成 3年12月20日	短期大学部食物栄養学科「入学定員50人 収容定員100人」に変更認可（変更時期 平成4年4月1日）
平成 4年 4月 1日	食物栄養学科の専攻課程廃止
平成 5年 3月19日	大学院文学研究科 英米文学専攻（修士課程）増設認可 大学院文学研究科英米文学専攻に「中学校教諭専修免許状 外国語（英語）、高等学校教諭専修免許状 外国語（英語）」授与の資格を得させるための課程認定（適用時期 平成5年4月1日）
平成 5年 4月 1日	大学院文学研究科英米文学専攻開設
平成 6年 4月 1日	短期大学部幼児教育学科学生募集停止

平成 7年12月22日	短期大学部専攻科栄養専攻（修業年限2年）の設置が文部省において受理される。
平成 8年 1月29日	短期大学部専攻科栄養専攻は学位授与機構が定める要件（学位規則第6条第1項）を満たす専攻科として認定される。
平成 8年 4月 1日	短期大学部専攻科栄養専攻開設
平成 8年 5月28日	短期大学部幼児教育学科を廃止
平成11年 3月19日	文学部国文学科，英文学科に「高等学校教諭一種免許状 国文学科に『国語』『書道』，英文学科に『英語』，中学校教諭一種免許状 国文学科に『国語』，英文学科に『英語』，初等教育学科に，「小学校教諭一種免許状 幼稚園教諭一種免許状」授与の資格を得させるための課程認定（適用時期 平成11年4月1日）
平成11年 5月31日	4年制大学の充実を図るため「文学部国文学科，英文学科」及び「短期大学部国文学科，英文学科」の学生募集を平成12年4月から停止して，新たに「人間言語学科（入学定員120人，編入学定員10人），人間文化学科（入学定員120人，編入学定員10人），人間福祉学科（入学定員100人，編入学定員20人）」の新設を設置申請
平成11年 7月28日	新学科設置申請認可 人間言語学科 入学定員120人，編入学定員10人，収容定員500人 人間文化学科 入学定員120人，編入学定員10人，収容定員500人 人間福祉学科 入学定員100人，編入学定員20人，収容定員440人 （開設時期 平成12年4月1日）
平成11年 8月 5日	学部名の「文学部」を「人間科学部」に名称変更届出
平成11年10月29日	学部名の「文学部」を「人間科学部」に名称変更届出受理（変更時期 平成12年4月1日）
平成11年12月24日	司書教諭講習科目の相当する授業科目開設について届出受理（開設時期 平成12年4月1日）
平成12年 2月29日	人間科学部人間言語学科に「高等学校教諭一種免許状，中学校教諭一種免許状，国語コースに（国語），英語コースに（英語）」人間文化学科に「高等学校教諭一種免許状（書道）」授与の資格を得させるための課程認定（適用時期 平成12年4月1日） 学部名「文学部」を「人間科学部」に名称を変更
平成12年 4月 1日	既設の文学部国文学科，英文学科（2学科は平成12年4月学生募集停止）のほか，人間科学部に，人間言語学科（入学定員120名，編入学定員10名），人間文化学科（入学定員120名，編入学定員10名），初等教育学科（入学定員80名），人間福祉学科（入学定員100名，編入学定員20名）開設。 短期大学部は，既設の国文学科，英文学科（2学科は平成12年4月学生募集停止），生活科学科，食物栄養学科となる。
平成12年12月21日	人間科学部人間福祉学科に「高等学校教諭一種免許状（福祉）」授与の資格を得させるための課程認定（適用時期 平成13年4月1日）
平成13年 5月29日	短期大学部英文学科を廃止
平成14年 4月 1日	人間科学部に心理学科（入学定員70名，編入学定員10名），人間栄養学科（入学定員70名）開設 短期大学部生活科学科，食物栄養学科の学生募集を停止する。
平成14年 5月 7日	大学院文学研究科教育学専攻臨床心理学コースに「臨床心理士」受験資格に関する指定（第2種）を受ける（指定時期 平成15年4月1日，ただし協会指定運用内規により平成14年4月1日から遡及適用）。
平成14年 5月29日	短期大学部国文学科を廃止

平成15年 5月12日	短期大学部生活科学科を廃止
平成16年 4月 1日	人間科学部人間文化学科の学生募集を停止 人間言語学科（入学定員70名，編入学定員10名）に再編成 短期大学部専攻科栄養専攻の学生募集を停止
平成16年12月22日	文学部国文学科を廃止
平成17年 3月29日	人間科学部人間栄養学科に「栄養教諭一種免許状」授与の資格を得させるための課程認定（適用時期 平成17年4月1日）
平成17年 4月 1日	大学院文学研究科の名称を「人間科学研究科」と改称
平成17年 5月16日	独立行政法人大学評価・学位授与機構へ短期大学部専攻科栄養専攻の廃止届出
平成17年 5月30日	短期大学部を廃止
平成17年 7月 6日	人間科学研究科教育学専攻収容定員の変更に伴う学則変更届出 平成18年4月1日国語学国文学専攻入学定員5名（収容定員10名），英米文学専攻入学定員5名（収容定員10名）の学生募集を停止し，教育学専攻の入学定員10名（収容定員20名），平成19年4月入学定員15名（収容定員30名）とする。
平成18年 3月31日	文学部英文学科を廃止
平成20年 4月 1日	大学院人間科学研究科人間福祉学専攻を開設
平成21年 4月 1日	人間科学部人間言語学科の学生募集停止
平成22年 4月 1日	人間科学部グローバルコミュニケーション学科（入学定員70人，編入学定員5人）を開設
平成24年 4月17日	人間科学部初等教育学科及び人間福祉学科収容定員の変更に伴う学則変更届出 平成25年4月1日初等教育学科入学定員80名（収容定員320名）を入学定員100名（収容定員400名），人間福祉学科入学定員100名（収容定員440名（編入学40名））を入学定員80名（収容定員360名（編入学40名））に変更
平成27年 3月31日	人間科学部人間言語学科を廃止
平成29年11月28日	人間科学部心理学科及び人間科学研究科教育学専攻臨床心理学コースに「公認心理師」受験資格を得させるための科目変更届出（適用時期 平成30年4月1日）
平成30年10月 1日	人間科学部初等教育学科の学生募集を停止
平成31年 3月31日	大学院人間科学研究科人間福祉学専攻を廃止
平成31年 4月 1日	男女共学に移行し，大学名称を「広島文教大学」に変更 教育学部教育学科（入学定員150人，収容定員600人）設置 （人間科学部初等教育学科の学生募集停止）
令和 2 年3月31日	大学院人間科学研究科教育学専攻臨床心理学コースの「臨床心理士受験資格に関する指定大学院」を辞退

4. 設置する学校・学部・学科等

<大 学> 広島文教大学（広島市安佐北区可部東 1-2-1）

大学院人間科学研究科（教育学専攻）

教 育 学 部（教育学科）

人間科学部（初等教育学科、人間福祉学科、心理学科、人間栄養学科、
グローバルコミュニケーション学科）

<高等学校> 広島文教大学附属高等学校（広島市安佐北区可部東 1-2-3）

全日制課程普通科

<幼 稚 園> 広島文教大学附属幼稚園（広島市安佐北区可部東 1-1-15）

5. 学校・学部・学科等の学生数の状況

（令和2年5月1日現在）

		入学定員	入学者数	収容定員	現員数
広島文教大学大学院	人間科学研究科	15	3	30	5
広島文教大学	教育学部	150	160	300	323
	人間科学部	240	284	1,330	1,113
広島文教大学附属高等学校		160	156	540	398
広島文教大学附属幼稚園		45	49	160	150

6. 収容定員充足率

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
広島文教大学大学院	0.42	0.31	0.22	0.17	0.17
広島文教大学	0.74	0.68	0.69	0.77	0.88
広島文教大学附属高等学校	0.97	0.96	0.86	0.76	0.74
広島文教大学附属幼稚園	0.92	0.83	0.88	0.91	0.94

7. 役員の概要

(令和2年4月1日現在、理事定数11名、現員11名、監事定数2名、現員2名)

氏名	理事・監事の別	常勤・非常勤の別	就任年月日	主な現職等
武田 義輝	理 事	常勤	平成20年6月1日	学校法人武田学園理事長
森下 要治	理 事	常勤	平成29年4月1日	広島文教大学学長
河田 敦之	理 事	常勤	平成30年6月1日	広島文教大学附属高等学校校長
栗屋 一枝	理 事	常勤	平成26年4月1日	広島文教大学附属幼稚園園長
金本 潔	理 事	常勤	平成25年10月1日	学校法人武田学園副理事長兼学園統括部部长
桑原 正彦	理 事	非常勤	平成元年4月1日	医療法人唐淵会桑原医院院長
児玉 裕志	理 事	非常勤	平成19年4月1日	医療法人社団仁和会理事長
友廣 和典	理 事	非常勤	平成29年4月1日	友鉄工業株式会社取締役会長
大内 良治	理 事	非常勤	平成9年4月1日	大五産業株式会社代表取締役
梶原 督三	理 事	非常勤	令和2年4月1日	
栗屋 充博	理 事	非常勤	平成24年6月1日	旭調温工業株式会社代表取締役社長
石井 清貴	監 事	非常勤	令和2年4月1日	
大越 藤夫	監 事	常勤	平成28年4月1日	学校法人武田学園監事

8. 評議員の概要

(令和2年4月1日現在、現員23名)

氏名	主な現職等
武田 義輝	学校法人武田学園理事長
金本 潔	学校法人武田学園副理事長兼学園統括部部长
森下 要治	広島文教大学学長
河田 敦之	広島文教大学附属高等学校校長
栗屋 一枝	広島文教大学附属幼稚園園長
桑原 正彦	医療法人唐淵会桑原医院院長
児玉 裕志	医療法人社団仁和会理事長
友廣 和典	友鉄工業株式会社取締役会長
大内 良治	大五産業株式会社代表取締役
梶原 督三	
栗屋 充博	旭調温工業株式会社代表取締役社長

岡 利道	広島文教大学副学長
植田 智	広島文教大学副学長
深田 博己	広島文教大学学長補佐
石川 雅意	広島文教大学附属高等学校教頭
岡室 薫	広島文教大学附属高等学校教諭
野地 民江	広島文教大学附属幼稚園主任
伊藤 卓典	学校法人武田学園学園統括部副部長
寺西 岑子	
西山 好江	
村田 賀寿子	
山田 美鈴	三次市こども発達支援センター
寺西 玄宗	広島文教大学附属高等学校非常勤講師

9. 教職員の概要

区 分	平成 30 年度			令和元年度			令和 2 年度		
	専 任 教 育 職 員	非常勤 教 育 職 員	専 任 事 務 職 員	専 任 教 育 職 員	非常勤 教 育 職 員	専 任 事 務 職 員	専 任 教 育 職 員	非常勤 教 育 職 員	専 任 事 務 職 員
広 島 文 教 大 学	90	76	48	91	87	46	89	96	50
附 属 高 等 学 校	41	8	5	38	12	4	38	8	5
附 属 幼 稚 園	9	4	3	10	6	1	10	7	1
計	140	88	56	139	105	51	137	111	56

Ⅱ．事業の概要

1. 認証評価

広島文教大学は、令和元年 10 月、公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受審し、平成 25 年に続いて「大学評価基準に適合している。」と令和 2 年 3 月 11 日付けで認定されました。

2. 主な教育・研究の概要

(1) 広島文教大学

① 大学ミッション

「わたしたちは、質の高い教育ときめ細かな支援で、学生一人ひとりの成長を後押しし、社会に役立つ人材を育成します。」

■卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

広島文教大学は、建学の精神及び学園訓に基づき、謙虚で優雅な人間性と思いやりの心を持ち、正しい判断力とたくましい実践力を身につけた人材の育成を目的とし、「育心育人」という教育理念の具現化を通して、「自立した人材」の育成を目的としています。その目的を達成するために、「広島文教大学における教育研究目的に関する規程」第 2 条に基づく以下の能力を修得及び育成し、社会に有用な人材を育成することを教育目標としています。

(1) 状況を見極め適切に判断し、計画を具体的な行動に移す能力（実践力）

自らの目標達成のために解決しなければならない課題に対して、状況に対する正しい理解とそれに基づく最適な判断、そして積極的な態度で行動することができます。

(2) 自らを律し、社会でたくましく生き抜こうとする姿勢（自律性）

予測困難な社会の中で、たくましく生き抜いてゆこうとする姿勢を身につけることができます。

(3) リテラシーに基づくコミュニケーション力

言語に関わる高度なリテラシーを獲得し、それに基づくコミュニケーション能力を実践的生活に活用することができます。

(4) 専門的な知識・技能の活用力

学位プログラムに関わる専門的な知識・技能を獲得し、それを職業生活において活用することができます。

(5) 豊かな人間性（育心育人）

「育心育人」の精神に基づく他者への配慮、多様性への理解、自らの人間性の向上を通して人間性あふれる豊かな社会を実現しようとする態度を身につけることができます。

■教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

広島文教大学は、卒業認定・学位授与の方針に掲げた教育目標達成のために、教養

教育科目及び専門教育科目,その他必要と考える科目を体系的に配置し,教育目標との関連を示すためにナンバリングを行います。また,学修系統を容易に把握できるように,科目の関係をカリキュラムマップにより明示します。

学修内容,学修方法,学修成果の評価の在り方については以下のとおりとしています。

1 学修内容

- (1) 教養教育では,現実の問題を多面的に考える力や社会で必要となる基礎的なスキルとともに,たくましく生きる力を身につけることを目的として初年次教育及びキャリア形成教育をおこないます。
- (2) 語学教育では,英語学修専用施設(Bunkyo English Communication Center)を活用した少人数教育によるアクティブ・ラーニングを通して外国語の活用力の育成をはかります。
- (3) 専門教育では,各専門領域の体系的性に基づいて,科目を適切な学年・期に配置し,その関連性をカリキュラムマップによって示します。

2 学修方法

- (1) 双方向性を実現し,能動的な学修態度と実践力を養うために ICT 機器を活用します。
- (2) 自律学修習慣を身につけるために,「育心の時間」(オフィスアワー)を活用して学修成果評価後の指導を実施します。
- (3) 実践力及びコミュニケーション力を養うために,少人数の授業ではアクティブ・ラーニングを取り入れます。
- (4) 豊かな人間性を育成するために,学科ごとに開講される「プログラム育心」を実施します。

3 学修成果の評価の在り方

卒業認定・学位授与の方針に掲げる実践力等の修得状況を大学としての評価,学科としての評価,学生個人の評価のそれぞれによって把握します。

- (1) 大学としての評価は,学修行動調査及び自己評価シートの結果に基づいて評価します。
- (2) 学科としての評価は,学科長及びチューターによって専門教育科目の GPA に基づいて評価します。
- (3) 学生個人の評価は,履修科目の GPA,卒業研究の評価及び自己評価シートに基づいて評価します。

■入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

広島文教大学は,本学の卒業認定・学位授与の方針に掲げる人材を育成するために,教育課程編成・実施の方針によって定める学修内容及び学修方法を通じて自立した人材へと成長できる,以下の資質を持った入学者を求めます。そのために,多様な選抜方法を実施します。

- (1) 入学前教育に対して持続的に取り組むことができる。
- (2) 高等学校等までの学習内容のうち、国語総合を通じてコミュニケーション力及びリテラシーの基礎的な力を身につけている。
- (3) 自立するために必要な専門的知識・技能を修得しようとする意欲がある。
- (4) 広島文教大学の教育理念を理解し、心の在り方を問い続けようとする意欲がある。

■ 学修成果の評価に関する方針（アセスメント・ポリシー）

卒業認定・学位授与の方針に掲げる教育目標の達成状況は、教育課程編成・実施の方針の「3 学修成果の評価の在り方」によりますが、その具体的な方法は以下のとおりです。

(1) 卒業研究の評価

卒業研究の評価は、学部共通の卒業研究ルーブリックによって評価します。評価結果の妥当性については、大学及び学科として評価結果を集計し検証します。また、学生個人としては卒業研究ルーブリック及び指導教員との面談により確認します。

(2) 総括テスト、レポート等による評価

各期末に総括テスト、レポート等による評価を行います。レポートについてはコモン・ルーブリックを必要に応じて活用します。また、科目の内容に共通性があるものについては科目群として、コモン・ルーブリックを科目の性質に対応させた科目群ルーブリックとして活用します。

(3) 育心アンケート

卒業認定・学位授与の方針に掲げる教育目標の達成状況を確認するために、卒業時に育心アンケートによる調査を行います。この結果は、大学及び学科として集計します。

上記に掲げる評価の他、各種採用試験・国家試験等の合格率、資格の取得状況などについても評価の観点として設定します。

② 教育活動

男女共学化及び教育学部設置を実現し、新たに「広島文教大学」としてスタートを切って2年目の今年度は、前年度末から感染拡大が報じられていた新型コロナウイルス感染症の影響を受けました。

全国に緊急事態宣言が発せられた年度当初は、感染拡大防止のために大学構内への立ち入りを制限し、授業や学生指導を、オンラインによる遠隔を主とする非対面方式で実施することとなりました。ただ、学生全員にiPadを配付していたために、オンライン授業への切り替えは比較的早い時期に実現し、授業日程の変更も最小限に抑えることができました。広島県に出されていた緊急事態宣言に伴う措置が5月半ばに解除されて後は、徐々に対面授業を増やし、後期においては、感染の第三波の影響を受けた最後の数週間を除き、オンラインによる非対面授業を組み合わせな

がらも対面授業を主とする状態にほぼ戻すことができました。

ただし、感染症の影響を受けてからの対面授業は、授業者・受講者へのマスク着用の徹底、手洗い・消毒、飛沫防止の亚克力板設置や適切な座席間隔の確保等、さまざまな感染予防策を講ずることとなりました。対面での教育活動を実施するために、学生ばかりでなく、授業を行う教員や、運営全般をサポートする学園統括部職員等、関係者全員の協力が必要であったと言えます。

しかし、これらの取り組みによって、いわゆるコロナ禍にありながら、平常時の授業とほとんど同等の内容及び水準の教育活動を実現することができました。

③ 研究活動

本学の研究活動の成果は、各種学術雑誌の形で公刊されています。感染症対策のために一つ一つの業務負担が増す中でも、「教職センター年報」「対人コミュニケーション研究」「人間福祉研究」「広島文教教育」「広島文教食物栄養研究会誌」「広島文教大学研究紀要」「広島文教大学高等教育研究」「広島文教大学心理学研究」「広島文教グローバル」「文教國文学」等の学術雑誌がほぼ例年どおりに刊行され、本学学生や教職員の研究成果の一斑を広く社会に問うことができました。

④ 国際交流

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、留学等の国際交流活動は厳しく制限され、通常どおりの活動を行うことができませんでした。

しかし、新年度に向けて、例えば米国オハイオ州 ケント州立大学からは留学を受入れるとの連絡が寄せられるなど、あくまで感染症の状況次第ではありますが、徐々に交流再開の動きが出始めています。

⑤ 地域連携

広島市の補助金事業である常設オープンスペース「すずらんひろば高陽」の運営にも引き続き取り組んでいます。これも新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けましたが、自粛生活の中での子育ての困りごとに対して、オンラインによる相談を行い、活動を継続しました。

この数年恒例となっていたボランティア活動の報告会は、不特定多数の方と関わることが多いボランティア活動そのものが制限されたために、開催を見送りました。また、外部講師 12 人を招いて人それぞれの活動や人生体験を聴く「人生論」も、過去の授業の録画視聴に振り替えざるを得ないこととなりました。このほか、広島市安佐北区役所との地域連携協力に関する協定に基づいて実施していた本学教職員と同区役所との恒例の意見交換会も、感染拡大を受けて中止することとなりました。

次年度は、こうした活動についても新型コロナウイルスの感染状況を見極めつつ、可能な形を探りながら再開・実施していきたいと考えています。

⑥ キャンパス整備

- ・感染症対策

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、オンラインを中心とした非対面形式での授業・学生指導でスタートしましたが、年度当初に発令された緊急事態宣言が解除されてからは、感染防止策を徹底しながら、徐々に対面形式の授業を再開しました。

具体的には、次のとおりです。

- 各建物や教室等への出入口：消毒液の設置
- 教室等：身体的距離の確保のための座席数の調整
- 学生食堂：身体的距離の確保のための座席数の調整及び飛沫防止板の設置
- 学生対応窓口・事務室等：飛沫防止用のアクリル板、透明シートの設置

これらの消毒液・備品等の設置・補充・管理及び学修環境の整備は、学園統括部の全面的な協力のもとに行われました。

・ I R 活動の展開

高等教育研究センター内に IR 部会を設置し、IR 活動の積極的な展開と充実を図っています。

本学では IC カードの学生証を利用した出欠管理システムを使用しており、学生の授業への出席状況の把握を容易にするとともに、出席状況を IR 活動^{*}に利用しています。また、IR 部会が中心となって学生満足度調査・学修行動調査・学生生活に関するアンケート調査等を実施して、本学の教育活動や学生の学修行動の実態把握を進めています。これらの調査・分析結果は、学科長会・高等教育研究センター運営委員会等の会議体で報告・共有されるとともに、その概要は教職員に向けた研修会にも供され、今後の教育活動を進める上での基礎資料として活用されています。

今年度は、コロナ禍の中にあってもほぼ当初の計画どおり調査・分析を進め、学生たちの実態の把握に努めました。

※IR (institutional research)：高等教育機関レベルの計画立案や意思決定に有効なデータの分析及び提供を行う組織的活動

⑦ キャリア形成と卒業生の進路・就職状況

令和3年3月卒業生で就職を希望する者の就職率は99.5%でした。

近年は、景気の回復傾向によって採用側の求人情数及び採用者数がさらに高まる中、就職活動スケジュールの前倒しが益々顕著になりました。さらに、今年度の就職活動は、コロナ禍の影響を強く受けることとなりました。一つ一つの活動に制約の多い中で、今年度も次の就職支援と指導等を行いました。

・ 小規模大学の強みを活かした個別支援

一人ひとりに向き合う個別支援に重点を置き、きめ細かなサポートを徹底して行いました。3・4年生全員の個別面談（前期/後期）や、学年に関係なく行うキャリア・コンサルティング等の個別支援は、新型コロナウイルスの感染状況に応じて、オンラインによる方法を組み合わせながら実施しました。

・ キャリアガイダンスの充実

コロナ禍の影響を受けながらも、学生の就職活動や進路選択の支援を進めました。12月12日には、県内11事業所のご協力のもと、オンラインによって業界研究セミナーを開催しました。1年生及び3年生を中心に全学科から215名の学生が参加し、様々な職業について知見を深め、就職活動に向けた心構えを学んでいました（人数は申込者数。前年度参加者は113名）。終了後の学生アンケートでも、「実際に求められる人物像や自分が今学んでおくことなどを知ることができ、自分の考えている進路の幅が広がったと感じた。」「実際に働いていらっしゃる方のお話が聞けて満足だった。気になる職業があっても、企業の方のお話を聞く機会が今までなかったのもとても貴重なセミナーだった。」「普段身近にある企業について知らなかったことも多く知ることができたし、これからさまざまな業種について知りたいと思うきっかけになった。」など、おおむね好評でした。

また、今年度からの試みとして、2月16日～26日に、3年生を対象とした実践的業界研究会を実施しました。3月1日の就職活動解禁を直前に控えた時期に行うことで、直接エントリーに結びつけようとする試みです。一般企業を目指す3年生114名が参加し、就職活動を開始しています。

(2) 広島文教大学附属高等学校

① 高等学校ミッション（目指す生徒像）

「われわれは、さらなる教授力の確立に努め、凛としてさやかな知性溢れる生徒を育成します。」

② 教育方針

創設以来の「育心育人」の教育理念に基づく教育を展開する。

ア 「主体的・対話的で深い学び」により真の学力を育む教育を進める。

- ・生涯を通じて主体的に学び続ける意欲をもった生徒を育てます。
- ・確かな言語能力と豊かな知識・技能を身に付け、それらを活用して自ら考え、判断し、表現する力を身に付けた生徒を育てます。
- ・新しい大学入試に対応し高い進路目標を達成できる生徒を育てます。

イ 建学の精神に基づいた「心の教育」を進める。

- ・人に関わる全ての場面で、「他者への敬意（他者の人格の尊重）」を念頭に置いた振舞いができる生徒を育てます。
- ・日本文化を継承する担い手としての誇りと自覚をもった生徒を育てます。
- ・「互いに認め合い、支え合う」、「磨き合い、高めあう」人間関係の大切さが分かる生徒を育てます。
- ・文教生としての気構えを持ち、基本的な生活習慣・生活態度が確立した生徒を育てます。

ウ 新しい時代を自立した女性として逞しく生きる力を育む教育を進める。

- ・社会人として必要なコミュニケーション能力、リーダーシップ、レジリエンス

などのコンピテンシーを身に付けた生徒を育てます。

- ・様々な問題の解決にICTを有効かつ適切に活用できる能力を身に付けた生徒を育てます。
- ・国際人として必要な資質・能力と外国語運用能力を身に付けた生徒を育てます。
- ・政治的教養など主権者として必要な資質・能力を身に付けた生徒を育てます。

③ 教育実践

ア 「主体的・対話的で深い学び」により真の学力を育む教育の推進

- ・1年生の「総合的な探究の時間」において、国際連合の「持続的開発目標（SDGs）」について、グループでの探究活動を実施しました。
- ・定期試験において、すべての教科・科目で「思考力・判断力・表現力」を問う問題を出題し、大学入学共通テストに対応できる学力の養成に努めました。
- ・全教科・科目について、昨年度末に作成したシラバス、ルーブリックを活用した指導と評価を行い、それらの有効性を検証しました。
- ・選抜性の高い大学・学部への進学を目指す生徒に対する学習指導を充実させるため、大手予備校と年間を通じて連携するとともに、「文教塾」（放課後補習）や外部講師を招いての夏季講習会を計画的に実施しました。
- ・大学の学校推薦型選抜や総合型選抜を受験する生徒への指導を充実させるため、面接指導・志望理由書作成指導・小論文指導の開始時期を早め、一人一人の生徒に担当教員を割り当て、管理職を含む全教職員で指導に当たりました。

イ 建学の精神に基づいた「心の教育」の推進

- ・「礼法」の授業や教職員による朝の声掛けなどを柱に、教育活動全体を通じて、「他者への敬意」を念頭に置いた振舞いができるよう生徒を指導しました。
- ・新型コロナウイルス感染防止の取組みを通して、自他のかげがえのない命と健康を守るために協力・協働していくことの大切さを認識させ、自ら率先して感染防止の取組みを実践しようとする態度を育てました。

ウ 新しい時代を自立した女性として逞しく生きる力を育む教育の推進

- ・新しい文化の創造を目指して果敢に挑戦する気概をもった生徒を育てるために、文教祭において、アメリカ合衆国のシリコンバレーと東京と本校の3か所をオンラインで繋いでの「リモート講演会」（講師：森井啓允様、並木啓悟様）を開催しました。
- ・「ICTの文教」をスローガンに掲げる本校では、コロナ禍の中、感染防止のために、他校に先駆けて、授業・定期試験・面談等のオンライン実施に着手しました。また、各種学校行事のリモート開催にも取り組みました。これらのことにより、生徒に多くの新しいコンピュータスキルを身に付けさせることができました。
- ・タブレット端末を「総合的な探究の時間」における調べ学習やプレゼンテーションに活用したり、日々の学習の予習・復習や家庭学習課題の送受信などに利

用するなどしました。

- ・「英語の文教」として、実用英語検定の会場校を引き受け、生徒に積極的な受験を促し、合格に向けた対策講座や個別指導を実施するなど、実践的な英語運用能力を身に付けさせる取組みを精力的に推進しました。

④ 国際交流

令和2年度は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大（パンデミック）の影響により、カナダ・ホームステイ修学旅行、中期留学（3か月）、台湾修学旅行が、すべて実施できませんでした。このため、生徒の異文化交流への関心・意欲を高めることや、海外事情・国際情勢についての理解を深めさせることをねらいとして、令和3年2月に、広島文教大学の学生さん（山田紗季さん：国の「トビタテ！留学JAPAN」の制度を活用して東南アジア諸国に留学）を講師とする「留学体験講演会」を開催しました。

また、中国・桂林市出身の3年生生徒が、本校の日本語教諭の指導のもとで日本語の運用能力を更に高め、日本の大学への合格を目指して熱心に受験勉強に励み、周囲の生徒に素晴らしい刺激を与えてくれました。

⑤ 地域連携

令和2年度は、コロナ禍の影響により、本校と地域とが長年連携して行ってきた「文教さくら祭り」等の諸行事が開催できなかったため、十分な連携ができませんでした。一方、アニメ・イラスト部が「可部カラスの会」の依頼を受け、「可部のまちカルタ」の制作に取り組むなど、地元への理解を深め地域の活性化に寄与しようとする生徒の意識には高いものがありました。

⑥ キャンパス整備

美術教室の空調設備の更新を行うとともに、PTAからの御支援により生徒昇降口に傘立てを設置するなどの整備を行いました。

⑦ キャリア形成と卒業生の進路・就職状況

本校では、それぞれの生徒が、高い進路目標を掲げ、その達成に向けて日々の生活・学習に主体的に取り組むよう指導しています。本年度も、大学のオープンキャンパスへの参加、公立小学校での観察実習、年間を通じた体系的な模擬試験の受験、さらには、大学入学共通テストと各大学の個別入試に対応できる教科学力を養成する放課後の「文教塾」や個別指導、管理職も含めた組織的な小論文・面接指導など、生徒の夢・志を具体的な目標に換え、それを確かに達成させるための様々な取組みを実施しました

本校の卒業生の進路は、次の表に示すようにほとんどが進学ですが、民間企業等に6名の就職もありました。大学等への進学については、神戸大学をはじめとする国公立大学に6名が合格しました。大都市圏の難関私立大学へも多数の合格がありました。また、広島文教大学との「高大接続」が本年度から入試制度面でも明確化されたなかで、広島文教大学を受験し合格した生徒が27名と、卒業生全体の21.7%

を占めました。

令和2年度入試 合格状況

	学校	学部	学科(コース)	合格者数
国公立大学(6名)	神戸大学	国際人間科学	グローバル文化	1
	広島大学	総合科学	総合科学	1
	鳥取大学	工	化学バイオ系	1
	鳴門教育大学	教育	学校教育教員養成課程	1
	宮崎大学	農	畜産草地科	1
	島根県立大学	人間文化	地域文化	1
県外私立大学(21名)	同志社大学	経済	経済	1
	龍谷大学	社会	社会	1
	佛教大学	歴史	歴史文化	1
	京都橘大学	経済	経済	1
	京都光華女子大学	キャリア形成	キャリア形成	1
	関西医療大学	保健医療	ヘルスプロモーション整備	1
	関西福祉科学大学	教育	教育／子ども教育	1
	帝塚山学院大学	人間科学	食物／健康実践栄養士	2
	兵庫医療大学	リハビリテーション	理学療法	1
	びわこ成蹊スポーツ大学	スポーツ	スポーツ	1
	千葉工業大学	創造工	デザイン科学	1
	明治国際医療大学	看護	看護	1
	順天堂大学	スポーツ健康科学	スポーツ科学	1
	尚美学園大学	スポーツマネジメント	スポーツマネジメント	1
	静岡産業大学	経営	経営	1
	徳島文理大学	人間生活	建築デザイン	1
	環太平洋大学	体育	体育	1
	就実大学	人文科学	総合歴史	1
	立命館アジア太平洋大学	国際経営		2
広島文教大学(27名)	広島文教大学	教育	教育／初等教育	13
			教育／中等教育	1
		人間科学	人間栄養	4
			心理	1
			グローバルコミュニケーション	2
			人間福祉	6

県内私立大学(45名)	エリザベト音楽大学	音楽	演奏	2
	広島文化学園大学	人間健康	スポーツ健康	1
		学芸	音楽	1
		看護	看護	2
	広島修道大学	法	法	1
		人文	人間関係	1
			英語英文	3
		商	商	1
		国際コミュニティ	国際政治	1
		経済科学	経済情報	1
	広島女学院大学	人間生活	管理栄養	1
			生活デザイン	2
	日赤広島看護大学	看護	看護	1
	広島都市学園大学	健康科学	リハビリテーション	1
		看護	看護	4
		子ども教育	子ども教育	1
	広島経済大学	メディアビジネス	メディアビジネス	1
	広島国際大学	健康科学	心理	1
		看護	看護	2
	安田女子大学	文	日本文	2
			英語英米文	2
		教育	児童教育	1
		看護	看護	3
		現代ビジネス	現代ビジネス	2
			公共経営	1
		家政	生活デザイン	2
			造形デザイン	2
			管理栄養	1
		薬	薬	2
私立短期大学(8名)	比治山大学短期大学部		総合生活デザイン	2
			美術	1
	広島文化学園短期大学		コミュニティ生活	3
	安田女子短期大学		保育	2

大学校・専門学校(23名)	日本航空大学校		航空ビジネス	1
	広島医師会看護専門学校		看護	2
	呉医療センター附属呉看護専門学校		看護	2
	安佐准看護学院		看護	1
	大阪医療福祉専門学校		医療総合学科 視能訓練士学科	1
	神戸総合医療専門学校		視能訓練士	1
	中村調理製菓専門学校		製パン学科	1
	広島美容専門学校		美容科	1
	広島医療秘書こども専門学校		こども総合	1
	朝日医療専門学校		鍼灸	1
	広島医療保健専門学校		理学療法学科	1
	広島アニマルケア専門学校		動物管理	1
	広島県理容美容専門学校		専門課程 美容科	1
	広島ビューティー&ブライダル専門学校		トータルビューティ科	1
	穴吹デザイン専門学校		建築学科	1
	中日本航空専門学校		エアポートサービス グランドハンドリング	1
	駿台観光&外語専門学校		韓国語	2
	関西エール学院			1
	国際自然環境アウトドア専門学校		アウトドアプロインストラクター	1
	アミューズメントメディア総合学院		声優学科	1
就職(6名)	クラークシーゲルプランニング			2
	やまや			1
	アスカネット			1
	ビューティー加藤			1
	航空自衛隊一般曹候補生			1

(3)広島文教大学附属幼稚園

① 幼稚園ミッション

「わたしたちは、モンテッソーリ教育により、園児の豊かな人生の礎となる最高の教育を行います。」

② 教育目標

「心豊かで 社会性に富み 自立した子ども」を育てます。

③ 教育方針

建学の精神である「心を育て 人を育てる」を柱として、一人ひとりの園児への個別的な配慮のもと、「ひとりで できた」という体験を積み重ねることにより自立を促し、3つの心「やさしい心」「すこやかな心」「つよい心」を育てています。

④ 教育実践

ア. モンテッソーリ教育の保育実践

クラスは満3歳児入園の実施により、年々少、年少、年中、年長の4年齢混合編成です。見て学び、助け合う園生活の全ての場面においてモンテッソーリ教育法を基盤として、自立と社会性を育てています。

クラスでのチャレンジタイム（モンテッソーリ教具を用いた個別の自由選択活動）を通して、選択力や集中力などを高めています。年齢別の分野（音楽・体育・絵画制作）活動においては、発達段階にあわせたモンテッソーリ教育的な情操教育をしています。

イ. こころふれんず（未就園児保育）

入園前（2歳児）の親子を対象に、モンテッソーリ教育を基盤として幼児の自立を援助する活動を行っています。

ウ. なかよし木っず（預かり保育）

家庭的な雰囲気のもと、外遊びを十分取り入れた保育を行っています。

エ. 課外活動の充実

保育後の活動として英語教室、書道教室を大学の教員、学生等により、また、体育教室を外部団体により実施しています。

⑤ キャンパス整備

視聴覚教育の充実のために、たまごホールに暗幕用のカーテンレールを設備しました。園庭での運動活動の充実のために雲梯と太鼓橋を設置しました。

Ⅲ.財務の概要 (令和2年度決算状況)

1. 決算の概要

(1)資金収支計算書

(単位:千円)

科 目		28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
収入の部	学生生徒等納付金収入	1,637,829	1,542,916	1,551,635	1,682,825	1,885,404
	手数料収入	25,176	26,169	36,856	40,696	30,116
	寄付金収入	1,113	3,066	878	1,544	10,741
	補助金収入	599,127	399,078	799,896	413,537	505,886
	資産売却収入	0	0	0	2,638	0
	付随事業・収益事業収入	138,253	144,364	162,519	160,574	121,372
	受取利息・配当金収入	6,518	5,567	3,787	4,315	4,804
	雑収入	98,942	78,507	32,785	27,745	82,610
	借入金等収入	0	200,000	964,000	0	0
	前受金収入	390,113	430,164	511,663	550,385	529,346
	その他の収入	92,688	198,982	38,295	424,095	66,990
	資金収入調整勘定	△ 646,291	△ 428,116	△ 852,470	△ 576,361	△ 619,683
	前年度繰越支払資金	2,581,089	2,414,992	2,857,397	2,208,694	1,305,723
	合 計	4,924,557	5,015,689	6,107,241	4,940,686	3,923,309
支出の部	人件費支出	1,495,432	1,471,604	1,340,740	1,368,256	1,439,173
	教育研究経費支出	340,753	314,695	425,300	447,741	398,352
	管理経費支出	263,218	254,428	400,169	368,761	243,292
	借入金等利息支出	1,899	1,421	950	5,966	5,672
	借入金等返済支出	10,020	122,345	10,020	10,855	10,020
	施設関係支出	318,701	43,106	1,426,249	193,190	10,603
	設備関係支出	23,326	21,959	178,805	116,243	25,438
	資産運用支出	513	2,510	5,782	84,737	16,331
	その他の支出	93,820	52,868	146,764	1,093,058	855,906
	資金支出調整勘定	△ 38,115	△ 126,644	△ 36,232	△ 53,846	△ 39,463
	翌年度繰越支払資金	2,414,992	2,857,397	2,208,694	1,305,723	957,984
	合 計	4,924,559	5,015,689	6,107,241	4,940,686	3,923,309

※百円の位を四捨五入し、千円単位で記入しています。(以下、同じ)

(2)活動区分資金収支計算書

(単位:千円)

科 目			28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	1,637,829	1,542,916	1,551,635	1,682,825	1,885,404
		手 数 料 収 入	25,176	26,169	36,856	40,696	30,116
		特 別 寄 付 金 収 入	690	2,660	560	1,223	10,097
		一 般 寄 付 金 収 入	423	406	318	321	644
		経 常 費 等 補 助 金 収 入	456,947	399,078	394,201	373,905	501,066
		付 随 事 業 収 入	138,253	144,364	162,519	160,574	121,372
		雑 収 入	98,942	78,403	32,715	27,728	82,610
		上 記 以 外 の 収 入	1	0	1	0	0
		教育活動資金収入計 (A)	2,358,261	2,193,996	2,178,805	2,287,272	2,631,309
	支出	人 件 費 支 出	1,495,432	1,471,604	1,340,740	1,368,256	1,439,173
		教育研究経費支出	340,753	314,695	425,300	447,741	398,352
		管 理 経 費 支 出	263,218	253,691	400,169	368,761	243,292
		教育活動資金支出計	2,099,403	2,039,990	2,166,209	2,184,758	2,080,817
		差 引	258,858	154,006	12,596	102,514	550,492
調 整 勘 定 等	△ 117,583	129,518	7,371	49,490	△ 70,349		
教育活動資金収支差額 (B)	141,275	283,524	19,967	152,004	480,143		
施設設備等活動資金収支	施設設備等活動資金収入計	142,180	0	405,695	42,270	4,820	
	施設設備等活動資金支出計	342,026	65,065	1,605,055	309,434	36,041	
	差 引	△ 199,846	△ 65,065	△ 1,199,360	△ 267,164	△ 31,221	
	調 整 勘 定 等	△ 86,336	142,180	△ 405,695	366,063	34,812	
	施設設備等活動資金収支差額	△ 286,182	77,115	△ 1,605,055	98,899	3,591	
小 計			△ 144,907	360,639	△ 1,585,088	250,903	483,734
その他の活動資金収支	その他の活動資金収入計	8,590	210,294	970,175	8,185	8,711	
	その他の活動資金支出計	29,954	128,813	33,683	1,162,410	840,185	
	差 引	△ 21,364	81,481	936,492	△ 1,154,225	△ 831,474	
	調 整 勘 定 等	173	285	△ 107	352	1	
	その他の活動資金収支差額	△ 21,191	81,766	936,385	△ 1,153,874	△ 831,473	
支 払 資 金 の 増 減 額			△ 166,098	442,405	△ 648,703	△ 902,971	△ 347,739
前 年 度 繰 越 支 払 資 金			2,327,857	2,414,992	2,857,397	2,208,694	1,305,723
翌 年 度 繰 越 支 払 資 金			2,161,759	2,857,397	2,208,694	1,305,723	957,984

(3)事業活動収支計算書

(単位:千円)

科 目			28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
教育活動収支	事業活動収入	学 生 生 徒 等 納 付 金 (ア)	1,637,829	1,542,916	1,551,635	1,682,825	1,885,404
		手 数 料	25,176	26,169	36,856	40,696	30,116
		寄 付 金 (イ)	1,113	3,066	878	1,791	10,741
		経 常 費 等 補 助 金 (ウ)	456,947	399,078	394,201	373,905	501,066
		付 随 事 業 収 入	138,253	144,364	162,519	160,574	121,372
		雑 収 入	98,942	78,403	35,087	27,803	82,610
		教 育 活 動 収 入 計 (エ)	2,358,260	2,193,996	2,181,176	2,287,593	2,631,309
	事業活動支出	人 件 費 (オ)	1,510,489	1,449,550	1,328,779	1,366,678	1,435,691
		教 育 研 究 経 費 (カ)	570,615	554,125	651,691	722,115	679,565
		うち、減価償却	230,050	239,303	227,063	274,097	280,840
		管 理 経 費 (キ)	286,095	277,982	423,045	389,734	265,615
		うち、減価償却	22,611	22,970	22,167	21,182	22,278
		徴 収 不 能 額 等	520	1,906	1,676	1,615	510
		教 育 活 動 支 出 計 (ク)	2,367,719	2,283,563	2,405,191	2,480,142	2,381,382
	教育活動収支差額 (エ - ク = ケ)		△ 9,459	△ 89,567	△ 224,015	△ 192,549	249,927
教育活動外収支	事業収入	受 取 利 息 ・ 配 当 金	6,518	5,567	3,787	4,315	4,804
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0	
	教育活動外収入計 (コ)	6,518	5,567	3,787	4,315	4,804	
	事業支出	借 入 金 等 利 息	1,899	1,420	950	5,966	5,672
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0	
	教育活動外支出計 (サ)	1,899	1,420	950	5,966	5,672	
教育活動外収支差額 (コ - サ = シ)		4,619	4,147	2,837	△ 1,652	△ 868	
経常収支差額			△ 4,840	△ 85,420	△ 221,178	△ 194,201	249,059
特別収支	事業活動収入	資 産 売 却 差 額	0	0	0	648	0
		うち、有価証券売却差額	0	0	0	0	0
		そ の 他 の 特 別 収 入	158,034	2,507	407,983	42,668	7,761
		うち、施設設備寄付金 (ス)	0	0	0	0	0
		うち、現 物 寄 付 (セ)	15,854	2,403	2,218	3,020	2,941
		うち、施設設備補助金 (ソ)	142,180	0	405,695	39,632	4,820
	特 別 収 入 計 (タ)		158,034	2,507	407,983	43,317	7,761
	事業活動支出	資 産 処 分 差 額	0	5	964	70,579	370
		うち、有価証券処分差額	0	0	0	0	0
		うち、有価証券評価差額	0	0	0	0	0
		そ の 他 の 特 別 支 出	0	736	0	17,625	0
		特 別 支 出 計 (チ)	0	741	964	88,204	370
特 別 収 支 差 額 (タ - チ = ツ)		158,034	1,766	407,019	△ 44,888	7,392	
基本金組入前当年度収支差額 (ケ + シ + ツ : テ)			153,194	△ 83,654	185,841	△ 239,088	256,451
基 本 金 組 入 額 合 計 (ト)			△ 307,084	△ 66,321	△ 229,137	△ 240,064	△ 8,918
(第1号基本金組入額)			△ 306,584	△ 63,821	△ 228,637	△ 239,964	△ 8,918
(第2号基本金組入額)			0				
(第3号基本金組入額)			△ 500	△ 2,500	△ 500	△ 100	
(第4号基本金組入額)			0				
当 年 度 収 支 差 額 (テ - ト = ナ)			△ 153,890	△ 149,975	△ 43,296	△ 479,152	247,533
前 年 度 繰 越 収 支 差 額			△ 5,892,068	△ 6,028,956	△ 6,178,931	△ 6,220,287	△ 6,696,469
基 本 金 取 崩 額			17,000		1,939	2,970	0
翌 年 度 繰 越 収 支 差 額			△ 6,028,958	△ 6,178,931	△ 6,220,288	△ 6,696,469	△ 6,448,936
事業活動収入計 (エ + コ + タ = ニ)			2,522,812	2,202,070	2,592,946	2,335,224	2,643,874
事業活動支出計 (ク + サ + チ = ヌ)			2,369,618	2,285,724	2,407,105	2,574,313	2,387,423

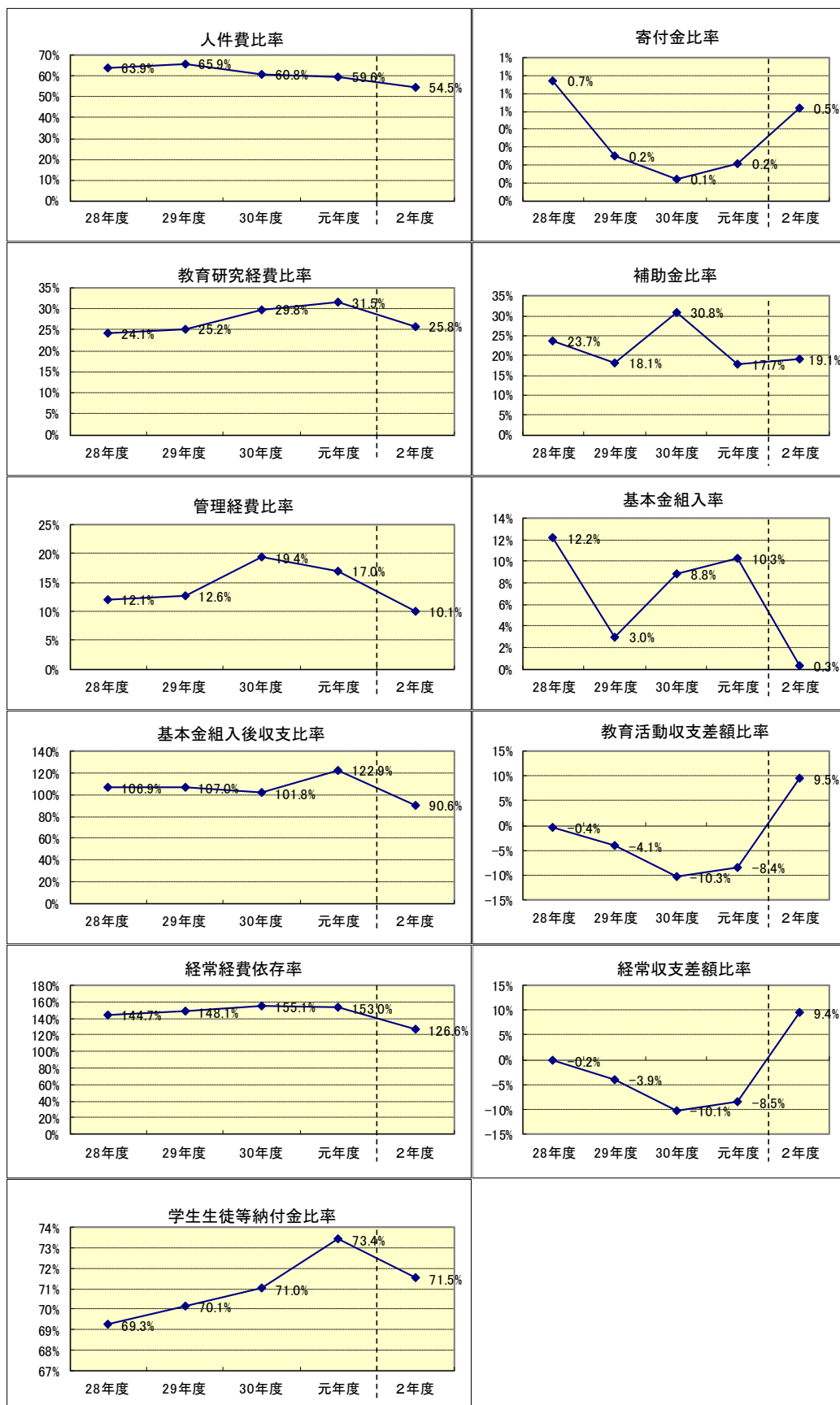
(4)貸借対照表

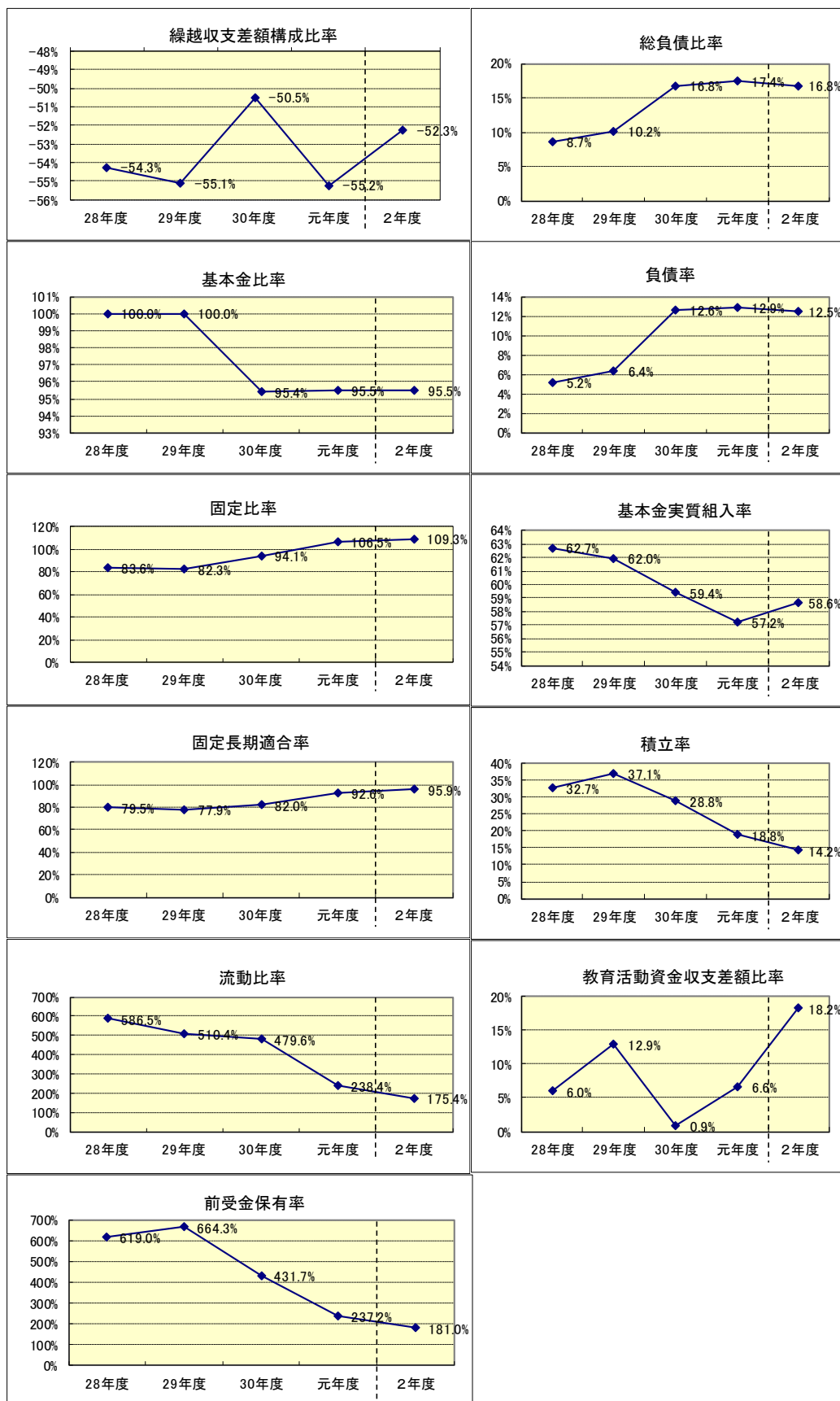
(単位:千円)

資 産 の 部					
科 目	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
固 定 資 産 (a)	8,477,074	8,284,533	9,647,154	10,658,634	11,216,918
有 形 固 定 資 産	8,186,026	7,998,561	9,354,891	9,275,909	9,014,156
う ち 、 土 地	2,886,312	2,886,312	2,886,312	2,866,697	2,866,697
う ち 、 建 物	3,621,868	3,463,259	4,705,570	4,502,257	4,312,701
う ち 、 構 築 物	379,769	348,521	384,225	475,808	441,634
うち、教育研究用機器備品	167,837	118,627	234,741	266,382	221,801
特 定 資 産 (b)	273,500	276,000	276,500	276,600	276,600
そ の 他 の 固 定 資 産	17,548	9,972	15,763	1,106,125	1,926,163
うち、収益事業元入金	0	0	0	0	0
う ち 、 有 価 証 券 (c)	0	0	0	0	0
流 動 資 産 (d)	2,634,074	2,921,987	2,668,707	1,462,987	1,117,002
う ち 、 現 金 預 金 (e)	2,414,992	2,857,397	2,208,694	1,305,723	957,984
う ち 、 有 価 証 券 (f)	0	0	0	0	0
そ の 他	219,082	64,590	460,013	157,264	159,018
合 計 (g)	11,111,148	11,206,520	12,315,861	12,121,621	12,333,920
負 債 の 部 ・ 純 資 産 の 部					
科 目	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
総 負 債 (h)	966,246	1,145,272	2,068,771	2,113,620	2,069,468
固 定 負 債 (i)	517,135	572,736	1,512,383	1,499,875	1,432,724
う ち 、 長 期 借 入 金	108,150	185,805	1,139,785	1,128,930	1,065,260
う ち 、 学 校 債	0	0	0	0	0
うち、退職給与引当金 (j)	408,985	386,931	372,598	370,945	367,464
流 動 負 債 (k)	449,111	572,536	556,388	613,745	636,744
う ち 、 短 期 借 入 金	10,020	10,020	10,020	10,020	63,670
う ち 、 前 受 金 (l)	390,113	430,164	511,663	550,385	529,346
基 本 金 (m)	16,173,858	16,240,179	16,467,376	16,704,471	16,713,389
ア 第 1 号 基 本 金	15,950,358	16,014,179	16,240,876	16,477,871	16,486,789
イ 第 2 号 基 本 金 (n)	0	0	0	0	0
ウ 第 3 号 基 本 金 (o)	53,500	56,000	56,500	56,600	56,600
エ 第 4 号 基 本 金	170,000	170,000	170,000	170,000	170,000
繰 越 収 支 差 額 (p)	▲ 6,028,956	▲ 6,178,931	▲ 6,220,287	▲ 6,696,469	▲ 6,448,936
翌 年 度 繰 越 収 支 差 額	▲ 6,028,956	▲ 6,178,931	▲ 6,220,287	▲ 6,696,469	▲ 6,448,936
合 計 (h)+(m)+(p)	11,111,148	11,206,520	12,315,860	12,121,622	12,333,920
減価償却額の累積額の合計額 (q)	7,749,472	8,008,103	8,193,374	7,980,422	8,252,195
基 本 金 未 組 入 額 (r)	0	0	791,036	791,036	791,036

(5)財務比率

分類	比 率	算 式 (×100)	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
事業活動収支計算書	人 件 費 比 率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{経 常 収 入}} \frac{(\text{オ})}{(\text{エ}+\text{コ})}$	63.9%	65.9%	60.8%	59.6%	54.5%
	教 育 研 究 経 費 比 率	$\frac{\text{教 育 研 究 経 費}}{\text{経 常 収 入}} \frac{(\text{カ})}{(\text{エ}+\text{コ})}$	24.1%	25.2%	29.8%	31.5%	25.8%
	管 理 経 費 比 率	$\frac{\text{管 理 経 費}}{\text{経 常 収 入}} \frac{(\text{キ})}{(\text{エ}+\text{コ})}$	12.1%	12.6%	19.4%	17.0%	10.1%
	基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事 業 活 動 支 出}}{\text{事業活動収入－基本金組入額}} \frac{(\text{ヌ})}{(\text{ニ}-\text{ト})}$	106.9%	107.0%	101.8%	122.9%	90.6%
	経 常 経 費 依 存 率	$\frac{\text{事 業 活 動 支 出}}{\text{学 生 生 徒 等 納 付 金}} \frac{(\text{ヌ})}{(\text{ア})}$	144.7%	148.1%	155.1%	153.0%	126.6%
	学 生 生 徒 等 納 付 金 比 率	$\frac{\text{学 生 生 徒 等 納 付 金}}{\text{経 常 収 入}} \frac{(\text{ア})}{(\text{エ}+\text{コ})}$	69.3%	70.1%	71.0%	73.4%	71.5%
	寄 付 金 比 率	$\frac{\text{寄 付 金}}{\text{事 業 活 動 収 入}} \frac{(\text{イ}+\text{ス}+\text{セ})}{(\text{ニ})}$	0.7%	0.2%	0.1%	0.2%	0.5%
	補 助 金 比 率	$\frac{\text{補 助 金}}{\text{事 業 活 動 収 入}} \frac{(\text{ウ}+\text{ソ})}{(\text{ニ})}$	23.7%	18.1%	30.8%	17.7%	19.1%
	基 本 金 組 入 率	$\frac{\text{基 本 金 組 入 額}}{\text{事 業 活 動 収 入}} \frac{(\text{ト})}{(\text{ニ})}$	12.2%	3.0%	8.8%	10.3%	0.3%
	教 育 活 動 収 支 差 額 比 率	$\frac{\text{教 育 活 動 収 支 差 額}}{\text{教 育 活 動 収 入}} \frac{(\text{ケ})}{(\text{エ})}$	-0.4%	-4.1%	-10.3%	-8.4%	9.5%
	経 常 収 支 差 額 比 率	$\frac{\text{経 常 収 支 差 額}}{\text{経 常 収 入}} \frac{(\text{ケ}+\text{シ})}{(\text{エ}+\text{コ})}$	-0.2%	-3.9%	-10.1%	-8.5%	9.4%
	繰 越 収 支 差 額 比 率	$\frac{\text{繰 越 収 支 差 額}}{\text{総 負 債} + \text{純 資 産}} \frac{(\text{p})}{(\text{h}+\text{m}+\text{p})}$	-54.3%	-55.1%	-50.5%	-55.2%	-52.3%
貸借対照表	基 本 金 比 率	$\frac{\text{基 本 金}}{\text{基本金要繰入額}} \frac{(\text{m})}{(\text{m}+\text{r})}$	100.0%	100.0%	95.4%	95.5%	95.5%
	固 定 比 率	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{純 資 産}} \frac{(\text{a})}{(\text{m}+\text{p})}$	83.6%	82.3%	94.1%	106.5%	109.3%
	固 定 長 期 適 合 率	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{純 資 産} + \text{固 定 負 債}} \frac{(\text{a})}{(\text{m}+\text{p}+\text{i})}$	79.5%	77.9%	82.0%	92.6%	95.9%
	流 動 比 率	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}} \frac{(\text{d})}{(\text{k})}$	586.5%	510.4%	479.6%	238.4%	175.4%
	前 受 金 保 有 率	$\frac{\text{現 金 預 金}}{\text{前 受 金}} \frac{(\text{e})}{(\text{l})}$	619.0%	664.3%	431.7%	237.2%	181.0%
	総 負 債 比 率	$\frac{\text{総 負 債}}{\text{総 資 産}} \frac{(\text{h})}{(\text{g})}$	8.7%	10.2%	16.8%	17.4%	16.8%
	負 債 率	$\frac{\text{総 負 債} - \text{前 受 金}}{\text{総 資 産}} \frac{(\text{h}-\text{l})}{(\text{g})}$	5.2%	6.4%	12.6%	12.9%	12.5%
	基 本 金 実 質 組 入 率	$\frac{\text{純 資 産}}{\text{基本金要組入額}} \frac{(\text{m}+\text{p})}{(\text{m}+\text{r})}$	62.7%	62.0%	59.4%	57.2%	58.6%
	積 立 率	$\frac{\text{運 用 資 産}}{\text{要 積 立 額}} \frac{(\text{b}+\text{c}+\text{e}+\text{f})}{(\text{j}+\text{n}+\text{o}+\text{q})}$	32.7%	37.1%	28.8%	18.8%	14.2%
	活 動 区 分 教 育 活 動 資 金 収 支 差 額 比 率	$\frac{\text{教 育 活 動 資 金 収 支 差 額}}{\text{教 育 活 動 資 金 収 入 計}} \frac{(\text{B})}{(\text{A})}$	6.0%	12.9%	0.9%	6.6%	18.2%





令和2年度決算（財務3表）の概要は次のとおりです。

(1)貸借対照表

本表は、令和3年3月31日現在の財務状況を示しています。固定資産（土地・建物・機器備品・特定預金他）および流動資産（現金預金・未収入金他）の資産の部合計は12,334百万円で、前年度末と比べて212百万円の増加となりました。主な要因は、子会社への長期貸付金の増加によるものです。

一方、固定負債（長期借入金・退職給与引当金他）および流動負債（次年度借入返済金・未払金他）の負債の部合計は2,069百万円で、前年度末と比べて44百万円減少しました。主な要因は、前受金の減少によるものです。

資産の部合計から負債の部合計を差し引いた純資産の部合計は10,264百万円で、前年度より212百万円増加しました。

(2)事業活動収支計算書

基本金組入前の事業活動収入計は、2,644百万円となり、予算と比べて125百万円上回りました。一方、事業活動支出計は2,387百万円となり、予算と比べて124百万円下回りました。基本金組入前当年度収支差額は、予算では4百万円の赤字だったのに対し、決算では256百万円の黒字となりました。その要因は、経費支出の減少によるものです。

経常収支差額においては249百万円の黒字で、前年の194百万円赤字と比べると、その差は443百万円になります。主な要因は、学生数増加による収入増と、経費支出の減少によるものです。

なお、令和3年度の大学の入学者数については、引き続き定員を確保しており、今後も収支の改善が見込まれます。

(3)（活動区分）資金収支計算書

活動区分資金収支は、活動区分ごとの諸活動に対応する全ての収入・支出の内容を示しています。当年度の「教育活動資金収支差額」は、480百万円、「施設整備等活動資金収支差額」は4百万円となりました。また、「その他の活動資金収支差額」は▲831百万円ですが、主な要因は子会社への長期貸付金によるものです。これらを併せた当年度支払資金の増減額の合計は▲348百万円となりました。以上により、前年度繰越支払資金1,306百万円に当年度増減額▲348百万円を加えた翌年度繰越支払資金は958百万円となりました。

2. 経営改革計画（2018 年度～2020 年度）の進捗状況 及び 第 2 次文教マスタープラン（2021 年度～2025 年度）への移行

(1) 学生募集に係る取組

この 3 年間では、「共学化」および「教育学部設置」により、志願者数及び入学者数を大きく回復させることができた。令和 3 年度入試（令和 2 年度実施）では、学部の入学定員を超える 392 名が入学し、3 年続けて入学定員を充足することができた。

第 2 次文教マスタープランでは、入学定員の安定的な充足と一般選抜におけるボーダー偏差値の向上に向けて、①本学関心者を増加させる、②戦略的な高校訪問の実施、の 2 点を目標とする。

(2) 中途退学者数の減少に係る取組

この 3 年間では、まず学生の状況を把握するための取り組みとして、出席管理システムを活用した情報集約を構築し、大学全体で活用する体制づくりを行った。

第 2 次文教マスタープランでは、各学部の中途退学率を 2%以下の水準にすることを目指し、各学科において中途退学の現状分析と防止策について検討する。

(3) SD・FD や教職協働に係る取組

この 3 年間では、教員育成システムに関する調査・研究の成果として、メンター制度の導入、ティーチングポートフォリオの作成を実現し、スタッフ・ポートフォリオ導入に向けた調査研究を行った。

第 2 次文教マスタープランでは、これらを活用することで教育力を向上させ、私立大学等改革総合支援事業に採択されることを目標とする。

(4) 経費削減や収入増に係る取組

この 3 年間では、寄附金における収入増を図るため、各手続きを行うとともに恒常的に募集を行うようにした。

第 2 次文教マスタープランでは、財務基盤の安定と海外子会社等含めたグループの収益力を高めることを目指す。

(5) その他の取組

この 3 年間では、「共学化」および「教育学部設置」のため、新棟建設や旧棟取り壊し及び跡地の整備を行った。

第 2 次文教マスタープランでは、男女共学後の出口戦略を念頭に、キャリア教育、就職・進路指導の充実を図るとともに、地方の職を支える人材育成を目指す。

また、地域との連携の強化を目ざし、学びを地域(日常生活)に結び付ける取組を行う。

3. その他

(1)借入金の状況

借入先	期末残高	利率	返済期限
日本私学振興共済事業団	964,000,000 円	0.500%	令和 20 年 9 月 15 日
もみじ銀行	164,930,000 円	0.500%	令和 19 年 9 月 29 日

(2)寄附金の状況

令和 2 年度 寄附金 受入集計	件数	金額
特別寄附金	319	11,757,000 円
受配者指定寄附（法人）	9	2,460,000 円
特定寄附（法人）	1	300,000 円
特定寄附（個人）	309	8,997,000 円
一般寄附金	49	322,000 円
一般寄附金（個人）	49	322,000 円

(3)補助金の状況

	国庫補助金	地方公共団体補助金
大学	287,102,157 円	8,400,000 円
附属高等学校	1,203,176 円	173,438,737 円
附属幼稚園	294,468 円	35,447,480 円
合計	288,599,801 円	217,286,217 円

(4)関連当事者との取引の状況

法人名	旭調温工業株式会社
資本金又は出資金	2,000 万円
事業内容	空調・冷凍冷蔵設備の設計・施工・メンテナンス
関係内容	栗屋 充博（本学園の理事）が代表取締役社長である
取引内容（令和 2 年度）	冷暖房設備保守点検他 413,600 円

氏名	桑原 正彦（本学園の理事）
職業	医師
取引内容（令和 2 年度）	校医、産業医 975,810 円

(5)出資会社の状況

名 称	GRAN MACTAN HOLDINGS AND DEVELOPMENT CORPORATION				
事 業 内 容	不動産賃貸業（土地除く）、リース業				
出 資 金	14,000,000比ペソ（29,439,914円）、 14,000 口				
学校法人の出資状況	13,995,000比ペソ（29,429,400円）、 13,995 口 総出資金額に占める割合 99.96%				
出資の状況	令和元年10月31日 13,995,000比ペソ 13,995口				
当期中に学校法人が受け入れた配当及び寄附の金額並びに学校法人との資金、取引等の状況	(単位 円)				
	当該会社からの受入額	受取利息	833,000		
	当該会社への支払額				0
	(単位 円)				
		期首残高	資金支出等	資金収入等	期末残高
	当該会社への出資等	29,429,400			29,429,400
	当該会社への貸付金	1,000,000,000	500,000,000		1,500,000,000
	当該会社への立替金	69,595,200			69,595,200
	当該会社からの前受利息	3,000,000		1,000,000	4,000,000
保 証 債 務	なし				

監 事 監 査 報 告 書

令和3年5月18日

学校法人 武田学園
理 事 会 御 中
評 議 員 会 御 中

学校法人 武田学園

監事

石井 清貴 

監事

大越 藤夫 

私たちは、学校法人武田学園(以下「学園」とします。)の監事として、私立学校法第37条第3項及び学園寄附行為第17条の規定に従い、令和2年度(令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)における学園の業務若しくは財産状況又は理事の業務執行について監査を行いました。

監査にあたり、令和2年度学園監事監査計画により理事会、評議員会及び常任理事会に出席し、理事から業務の報告を聴取し、重要な書類を閲覧しました。また、会計監査人と連携し、必要と思われる監査手続きを実施しました。

監査の結果、学園の令和2年度における業務は適正であり、計算書類すなわち、資金収支計算書(人件費支出内訳表を含む。)、事業活動収支計算書、貸借対照表(固定資産明細表、借入金明細表及び基本金明細表を含む。)及び財産目録は、学校法人会計基準に従い作成され、会計帳簿等の記載と合致し、その収支及び財産の状況を正しく示しており、学園の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行に関する不正の行為、又は、法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めます。

以上